

令和6年度 学校評価 柏原中学校パワーアッププラン

1 目標・方針

中期的な学校運営の 目標・方針	【 学校教育目標 】 『こころ豊かで、自立する生徒の育成』 ～ 学び合い、支え合い、鍛え合う柏中生 ～ 【 めざす生徒像 】 ① 学んだことを活かせる生徒 ② 自治的な集団づくりを通して成長する生徒 ③ 目標をもって努力する生徒
本年度の重点目標	① 基礎・基本の学力を定着させ、学んだことを活用する力を育てる ② 自治活動を高め、人との関係づくりを通して社会を形成することができる力を育てる ③ 目標をもって取り組む生徒を育み、それを支援する環境を整える

2 自己評価（達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善）

領域	観点	評価項目	達成 状況	学校の取組状況と改善の方策
学校 運営	生徒指導	自治的活動等を通じて、生徒からの意見を表明する機会を確保し、それらの提案も生かした学校運営	B	生徒会活動や熟議を通じて、生徒が意見を表明する機会を確保することができた。（学級討議でも意見を募った。）このこともあり、主体的に自治的活動に取り組んでいると回答した全校生徒の割合が約90%であった。今後も広く生徒が意見表明できる機会を確保し、その提案等を取り入れながら学校運営を行う。
	保護者・ 地域住民 との連携	市内中学校での唯一の地域学校協働活動推進員の配置校として、学校運営協議会を核とした地域・学校・家庭の連携	A	今年度、熟議を開催し、学校運営について、地域、保護者、学校はもちろんのこと生徒からの意見も交流する機会をもつことができた。地域学校協働活動推進員が中心となり、授業支援への地域の方の参加や地域行事への生徒の参加も積極的に推進することができた。今後は、持続可能な取組となるように参加体制や組織体制を整える。
教育 課程	道德教育 の推進	県道德教育研究指定研究への組織的な取組	A	昨年からの「柏原中道德10スタイル」の取組を継続させるとともに、「考え議論し、こころの視野を広げる授業づく～声カケ・問いカケ・仕カケ～」の研究テーマをもと、研修計画に則った組織的な取組を行うことができた。本研究で得られた成果を共有するとともに組織的に継続することにより、道德の授業に限らず、教科の枠を越えた授業改善に繋げる。
	授業改善 の推進	個人思考の時間を確保した上で、ペア、グループなど生徒相互の効果的な学び合いと生徒が発信する機会を取り入れる。	C	「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」に肯定的に答える生徒の割合が87%であり、目標値を下回っている。協働的な学びを通じて自分の考えをアウトプットできる機会を設定する。また、意見交流の手段の一つとして、よりICTを効果的に活用することで、生徒自身がICTの有用性を感じる機会を確保する。
課題 教育	キャリア 教育	アントレプレナーシップ教育を推進する	B	アントレプレナーシップ教育のもと、学年に応じたテーマ設定を行い次年度の本格的な実践に繋げることができた。次年度については、外部からコーディネーターを招聘し、学校全体での持続可能な取組を計画しており、地域人材を効果的に活用することで地域課題を中心に据えた探究的な学習へと繋げる。

3 学校関係者評価

- ・学習面について、学習支援に参加された方々からは、生徒は、素直で落ち着いた様子で授業に参加しており、前向きに学習に取り組んでいる様子が見られたとの評価であった。
- ・生徒それぞれの個性に応じ、社会に対応できる学力を身に付けさせることを大切にし、これからの社会を生き抜くうえで必要な資質・能力が育成できるように、授業改善に継続して取り組む必要がある。
- ・ICTの有用性については、授業や行事等でバーチャルとリアルそれぞれの利点を感じる機会を設定することで、生徒自ら経験し実感することが大切である。
- ・今年度行った熟議については、生徒からの意見を地域の大人が聞く大変有意義な機会となった。次年度についても、学校運営協議会が中心となり、設定テーマや開催時期を十分に検討したうえで実施することを望む。熟議の定期的な開催が、柏原中学校の特色の一つになることを期待する。
- ・学習支援や地域の行事への生徒ボランティアの参加など、昨年度に引き続き継続することができている。今後も持続可能な取組となるように、活動の周知と活動報告など情報発信を効果的に行う必要がある。
- ・地域課題をテーマとした探究学習においては、地域人材の招聘や課題設定を事前に十分協議することで、学校・地域ともに成果が実感できる持続可能な取組となることを期待する。

4 次年度の改善の方向性

- ・道徳教育において、組織的に研究を推進したことで得られた成果を各教科の授業改善に繋げる。
- ・授業等の学習内容に応じて、実体験を伴う学習とICTを活用した学習を組み合わせながら活用することで、効果的に学習内容の定着を図るとともに、ICTの有用性が実感できる機会となるようにする。
- ・テーマや実施時期を十分に検討したうえ、今年度実施した熟議を継続して実施することで、地域の大人と生徒が意見交流できる機会を確保する。そして、この中で得られた意見を学校運営に反映させることで、地域・学校・家庭がビジョンの共有を図るとともに、連携した施策の実施に繋げる。
- ・アントレプレナーシップ教育の実践を通じて、各学年でテーマを設定した探究学習を実施し、地域教材・人材を有効に活用した取組を行う。

令和 7年 3月 19日

学校名 丹波市立柏原中学校
校長名 平瀬 憲利